

● **花見昼食会 4日(水) 花見山公園** 異常な春の訪れで、桜の開花はたいへん早く3月末では山城地域のほとんどが満開を迎えていました。今年の親子花見乗船体験は昨年の経験から8日に遅らせたので、日程的に余裕が生まれました。そこで事務局会議の進行を早めて、11時から弁当を買って京田辺市役所裏手の花見山公園に出かけました。オオシマザクラの花の下に14名が揃って昼食弁当をいただきながら歓談に花を咲かせました。少し気温は低めでしたが、話に花が咲きだして、にぎやかな2時間の食事会を楽しみました。数年前には3月3日前後に青谷の梅林に出かけましたが、桜の木の下で事務局出席者がうち揃っての昼食会は初めてでした。現役時代は何かあればこうした親睦の機会は数多くありましたが、現役を離れて以後久しぶりの花見で気分が爽快になりました。

● **親子花見乗船体験 8日(土)** ご多聞にもれず前々日の雨で桜の花は全部散り、まさに芽吹きに移り、葉桜のオンパレードでした。寒気がかなり流れ込み、朝からは気温も低く、観客はほとんど顔を見せずスタッフのみの開会式となりました。Eボートの担当を引き受けてくれた摂南大学エコシビル部の学生諸君15名が応援に来てくれました。それぞれ全員が自己紹介を行って、交流を深めあいました。参加者が少なく乗船者がさびしいと心配をしましたが、10時かきりに集合されて満席の第1号艇が青葉の防賀川に乗り出しました。摂南大学の女性船長がバトルの扱い方を丁寧に指導してくれました。はじめてボートに乗る方は船が動力で動くものと思っているようでした。エンジンは乗船客の皆さんの腕なのです、水をバトルで漕がないと動きませんとの説明に納得がいったようです。この日は10艇以上が出発をしました。もう一つのカヌー体験は6艇を用意しました。はじめは興味があっても乗ろうとする人はなかったのですが、担当の森島さんや深田さんのお誘いを受けて、乗ってみようかと漕ぎだす子供が現れると、堰を切ったように次から次へと集まってきて何度も乗り、思い切りカヌーを楽しみました。ここでも時間に余裕があったので、正午前に100mコースの往復カヌーレースを行いました。一位は4分20秒の学生さんでした。小学3年生の女の子も参加してくれました。同時に開催した木津川展には約80人前後の皆さんが見学に訪れてくれました。

里山の会単独の開催でしたが、かなりの皆さんが参加いただきました。少し風の吹く中でしたが、それにも負けない大勢でにぎやかに終了できました。初参加で、かがんでカヌーに乗りこまなければならないところをカヌーの上で腰を下ろす前に揺れ、転覆しました。これまでにないアクシデントがありました。

● **2018年度木津川希少種生育調査受注決まる** 昨年からは始まった木津川堤防の27カ所の希少種生育調査業務が特定非営利活動法人やましろ里山の会に委託したいという連絡が4月2日付で連絡が届きました。これから昨年同様に契約書の取り交わしや打ち合わせの事前準備が終わると、作業を開始です。昨年の受注面積は約8440㎡でしたが、実際には14000㎡でした。法面が急斜面で刈取り機械の刃も少し古びていたのも、秋も深まったときで枯草で固くになっていたのも、きれいに刈り取ることが難しかったです。今年は同じ場所での作業なので、春の刈取りは余裕をもって楽しみながらの作業と思います。ご参加いただく方にはご苦勞をおかけいたしますが、よろしく願い申し上げます。

また植生調査作業は春先には見つけやすいのですが、夏にかけて高く成長した草によって、姿を見失う場合も予想されます。暑さも伴いますので、かなり困難な作業になってきます。毎月の継続調査ですので、よろしく願いいたします。

● **春の野草を味わう会** 14日(土) 10時里山農園で開催 持ち込んだものもありましたが28種類の春の野草の料理が揃ったのが昨年の取組でした。お昼には採取した生命力あふれる野草の天ぷらや和え物などをおかずにして炊き立てのご飯を頂きました。3月の気温が暖かくて、しばらく異常な気候でしたが、野草の成長はいかがでしょうか、里山農園付近の野草の成長に大変興味がわいてきます。これまでに見つかっていない野草が発見できるかもしれませんね、この日は午後から場所を移動してカスミサンショウウオの観察会を予定しています。少し早いですが卵囊から幼成が生まれ出ているかもしれませんね。また農園周辺でクヌギや柳など樹液を出してくれる樹木の植樹にも取り組みます。オオムラサキの好物のクヌギやコナラは、豊かに樹液を出していましたが、ナラ枯れの発生で樹液を出す樹木のほとんどが無くなりました。植樹を行っていい環境づくりが整えば、幼虫の食草であり、越冬するエノキが農園周辺に20本以上生えていますので、樹液を出す成木が復活してくるとさらにいい環境が整うことになります。植樹にご協力をお願いします。

● **夏原グラント資金交付式** 14日 大村副理事長が出席 里山農園付近のナラ枯れ木の一部刈り倒しが実現して、1号地2号地の安全度が随分と改善されました。安心して農作業できるようになったのは、昨年4月に夏原グラントの助成金を受けられて、伐採が実現しました。継続して交付申請ができるとの規約から引き続き2018年度分を申請しました。申請金額は50万円に対して交付決定金額は20万円との連絡でした。したがって白土山への通路づくりに充当し、一部残っている頂上付近のナラ枯れ木の伐採を予定しています。

● **白木さんが事務作業のお手伝いを行っていただきました。**通常総会の招集案内状のはがきの名簿整理とあて名書きの上、発送までを行っていただきました。誰もができるように日頃から整理整頓できているのが常識ですが、年度末の退会者などの発生があって、思うようにできていないのが実情ですから、名簿の把握と整理、案文の作成などの点検確認作業は面倒な作業で相当時間が必要でした。ありがとうございました。

● **2017年度はこれまでない大事業を実施** 秋の蛇籠製作 中聖牛の設置 冬の「木津川はどんな川」の地域説明会の取組みに大変多くの皆様のご支援とご協力がありました。そして、木津川希少植物生育管理業務、夏原グラントの交付金、京都府地域力再生プロジェクト事業交付金という活動報告書作成が加わっての資料の整理の上での報告書作成作業はこれまでは考えられない事務量となりました。その作業もやっと峠を越して一段落といったところです。一息つく着く間もなく2018年度の申請期日が迫ってきています。通常総会準備、会誌44号の原稿集め編集印刷製本が目白押しです。できる所からお手伝いをいただきますと元気が出てきます。お互いに高齢化と体力の劣化、集中力の継続などこれまで気にしなかった衰えがあらゆる場面で現れて、気持ちの焦りが募る日々です。白木さんのお手伝いは大変ありがたいことです。前理事長の深田さんは長引く風邪に悩まされながら年度末の会計整理に日夜頑張ってくださいています。里山の会は非営利活動団体なので、受注業務を受けた場合の会計処理をどう進めればいいのか新たな課題に日夜御苦労のところ。白木さんも深田さんもかなりの高齢者であり、大変ですが、頑張ってくださいました。単純労務でなく複雑な準備作業が伴い方針や整理などを同時並行作業なので精神的に大変です。ありがとうございました。